

読解力を身に着けるために、昨日の新聞を
小学高学年生・中学生・高校生にプレゼントしてあげてください(2)
—新聞を毎日読むことで、すべての勉強の基本となる「読解力」が身に着き、
学校の勉強に役に立ち、また、受験にも役に立ちます—

開倫塾

塾長 林明夫

Q : 「読解力」を身に着けるために、新聞を毎日読む習慣は欠かせないのですか。

A : (1) ①その通りです。ですから、ご家庭で購読している昨日の新聞をお子様にごプレゼントしてあげてください。

②ただし、「読解力」を身に着けるには、新聞に加えて、辞書と読書の活用も必要不可欠です。

③難関校の受験に耐えられるレベルの「読解力」を身に着けるために、開倫塾では創業以来 40 年間、一貫して「辞書・新聞・読書の最大活用」をお奨めしています。

(2) ①せっかくだので、「辞書」と「読書」の活用のお話もさせていただきます。

②「読解力」で最も大切なのは、身に着けていることば（語句）の多さです。

③身に着けていることばの数を増やすのに最も役に立つのが、「辞書」の活用です。

(3) ①「辞書」とは、国語辞典、漢字（漢和）辞典、英和辞典、英英辞典などです。

②「辞書」の活用とは、辞書を自分のものとして使いこなすことです。

③「辞書」は「武士の刀」と同じです。持っていなければ勝負になりません。ですから、辞書はいつでも持ち歩き、手放さないことです。

* 「電子辞書」でも OK ですが、落ち着いて勉強するときは「紙の辞書」をパツ、パツ、パツと、どんどん引くことをお奨めします。

Q : 「辞書」ですか。「辞書」をどのように用いれば、身に着けていることばの数、語彙（ごい）数が確実に増えますか。

A : (1) ①なぜ「ことばの数を増やすこと」が大切か。それは、知っていることば・身に着けていることば（語句）の数が少ないと、学校の先生の授業はよく理解できないからです。

②教科書や教材、参考書、先生が黒板に書く内容もよく理解できないからです。

③定期テストや業者模試、入試の問題文や設問、選択肢の内容を正確に理解し、正解を導くことができないからです。

(2) ①では、言葉の数を増やすにはどうしたらよいか。勉強していて意味のよくわからないことば（語句）があったら、「気持ちが悪い」と思い、辞書を用いて意味を調べることです。

②辞書で調べた意味は、頑張って、その場で覚える。書き方も覚える。

③同時に、必ず「意味調べノート」か「カード」に書き写す。

(3) この後が大切です。

- ①書き写した「意味調べノート」や「カード」は、1 ページ目、1 枚目から繰り返し「声を出して」読み直し、学び直してすべて覚える。つまり、「音読練習」ですね。
 - ②漢字と英語は、意味を正確に覚えると同時に、すべて正確に書けるまで「書き取り練習」をする。漢字は「書き順」も正確に身に着ける。
 - ③ですから、漢字（漢和）辞典も必要です。
- (4) ①お奨めは、1日10回辞書で調べる。1か月で300回、1年で3650回、3年で1万回辞書を引き、自分の身に着けていることばの数を自分の力で増やすことです。
- ②「ことばは力」、「身に着けたことばの数は力」、「語彙数は力」です。「語彙力とは、身に着けていることばの総数」です。
 - ③「辞書を用いる習慣」を身に着け、ことばの数、語彙数を増やすこと。これが、「読解力」を身に着ける第1歩です。

Q : 「読解力」を身に着ける3番目は、「読書」でしたね。それではお聞きします。何をどのよう
に読んだらよいのですか。

A : (1) ①教科書、学校の図書室や近くの公共図書館（市立・町立・区立・県立・都立・国立などの図書館を、「公共図書館」といいます）で紹介されている本・学校の先生から紹介された本がお奨めです。

②これぞという本は、腰を落ち着けて一語一語ゆっくり読む。作者(著者)と「時空を超えた対話」をするような気持ちで、じっくり読むことです。

③1日30分以上、本をゆっくり読む。このようなじっくり型の読書が、「読解力」を確実に身に着けるのに役に立ちます。

(2) ①「うん、なるほど。そうか、これはこのようなことだったのか」

②「作者の考えはこうなのか」

③「作者のいたいことは何だろうか」などと考えながら読む、じっくり型の読書をお奨めします。

*気に入った文章は、「書き抜き読書ノート」にすべて書き抜くこと。

(3) ①一度読んだ本は何回も読むことも、「読解力」を身に着けるのに役に立ちます。

②大切な本は5～6回読むことです。「本は6回読むこと」をお奨めします。

③受験勉強の期間こそ、1日30分読書をするので、「読解力」と同時に「読書の習慣」も身に着けてください。

*このような本格的な「読書」によって得られるのは「思慮深さ」です。

Q : 各教科の勉強と、辞書・新聞・読書で「読解力」を身に着けることとの関係を、もう少しわかりやすく説明してください。

A : (1) 病気にかかったときには、病院に行って診断していただき、必要な治療（手術や薬の処方）をしていただくと同時に、十分な休養・栄養を取り、適切な運動などをすることが、回復のために必要です。せつかく病院で検査・診断・治療をしていただいたのに、暴飲・暴食をしたり、夜も寝ないで遊びほうけたり、大人であればアルコールやたばこをやめなかったりしたら、病気の回復は期待できません。

(2) これと同じで、いくら教科の内容のみを勉強しても、「読解力」を身に着けることを怠ると、教科書や教材、試験問題を正確に最後まで読み解くことはできないため、学校の授業

を理解すること・定期テストや入試でよい点数を取るとはなかなか難しいといえます。
(3) 辞書・新聞・読書で「読解力」を身に着けることは、病気のときの十分な睡眠・栄養・運動などと全く同じで大切です。おわかりですか。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 保護者の皆様にお願ひがあります。それは、昨日の新聞を、小学高学年生・中学生・高校生にプレゼントしてあげていただきたいということです。

(2) 新聞を購読なさっていない場合は、可能であれば新聞を購読していただき、保護者の皆様が読み終えた昨日の新聞を、お子様にプレゼントしてあげていただきたいということです。

(3) 学校の図書室や公共図書館で新聞を毎日読むことも、ご家庭でご指導ください。併せて、図書館で辞書や読書に親しむことも家庭教育の一環としてご指導ください。

どうかよろしくお願ひいたします。